

令和7年度 赤穂市学校(園) 評価 外部評価報告書

学校園名	赤穂市立城西小学校
------	-----------

1 本年度の学校経営方針

<p>学校教育目標</p> <p>夢と志をもって、未来をたくましく生き抜く児童の育成</p> <p>(1) 自ら学ぼうとする意欲、「ことばの力」を高める授業づくりを推進し、「納得解」を追究する対話を通じた確かな学力の育成</p> <p>(2) 相手の立場になって想像し、共に支え合う学級、学年、学校づくり</p> <p>(3) 赤穂義士等地域の歴史・文化・人々とのふれあいを通じて、地域と共に歩む「城西大好きっ子」の育成</p>
--

2 本年度の学校重点目標

<p>(1) 個を生かす学習指導の充実</p> <p>(2) 豊かな人間性の育成</p> <p>(3) 強い意志とたくましい体づくり</p> <p>(4) 家庭・地域とのつながり・信頼・連携の促進</p> <p>(5) 学校の組織力及び教職員の資質・能力の向上</p>
--

総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面で児童と接する中で、皆発言力があり仲間思いな様子が見られしっかり育っていると感じる。他者を認め、自分も認め、心も体も強い児童になってほしい。 ・様々な家庭や考え方があってと思うが、学校と家庭の連携をしっかりと、大切なことは発信し続けた方がよい。 ・世の中のニーズに合わせた対応が必要とされている中、地域とのつながりを深め、地域の資源を有効活用してほしい。 ・学校教育目標にそって教育されている先生方の努力に感謝している。 ・タブレット、電子黒板などのICT機器を効果的に活用し、工夫された授業が行われていた。 ・元気な児童の様子を見て嬉しい気持ちになる。来訪者にもあいさつがよくできている。地域の人と力を合わせて子ども達を見守ってほしい。 ・人に親切にできる児童が多い印象である。教師も児童も、自身の良さを十分に自覚し、認め合って生活してほしい。

3 自己評価結果 (A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)	評価資料	評価 数値	達成状況	分析及び評価	
1 個を生かす学習指導の充実	① 個を生かす学習指導の充実	項目 学ぶ楽しさを味わえる授業づくり	授業実践 行動観察	3.3	A 3.3	楽しんで学校に通っていると回答した児童・保護者が多い。教員も「学びの楽しさ」を実感できる授業づくりに取り組んでいるところである。
		指標 児 学ぶ楽しさ実感を実感している	ノート アンケート	3.2		
		保 子どもが楽しく学校に通う姿	連絡帳 アンケート	3.5		
	② 個に応じた指導	項目 ユニバーサルデザイン化を意識した授業づくり	授業実践 教室環境	3.2	A 3.3	分からないことや困ったことを安心して教師や友達に相談したり、尋ねたりできる風土づくりができているのではないかと。半面、困っている児童も一部おり、個々をしっかりと見取り関わる必要がある。
		指標 児 授業がわかりやすいと感じている	ノート アンケート	3.3		
		保 個のよさが認められ、いきいきと過ごす子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.3		
	③ 基礎・基本の定着	項目 各教科の基礎・基本の定着、「ことばの力」の育成	評価テスト 行動観察	3.1	A 3.2	児童は比較的にできていると感じているが、教員・保護者はさらなる基礎・基本の定着を必要と感じている。
		指標 児 漢字や計算を身につけたと感じている	ノート アンケート	3.3		
		保 読み・書き・計算の力を身につけた子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.1		
	④ 思考力・判断力・表現力の育成	項目 対話の場の設定と「考える力」「表現する力」の育成	授業実践 行動観察	3.3	A 3.1	対話を中心とした授業づくりに取り組んできているが、思考し、表現することに課題を感じている児童や保護者もいる。
		指標 児 自分の考えを発表したり、まとめたりしている	ノート アンケート	3		
		保 「考える力」「表現する力」を伸ばした子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.1		
	⑤ キャリア教育の推進	項目 目標やめあてに向かって学ぶ授業・学級集団づくり	キャリアパスポート 行動観察	3.2	A 3.1	学校生活では、個人や学級などで目標を決め、取り組むことができている児童が多い。保護者は、取り組む過程での児童の姿や家庭での児童の姿との違いなどが見取りにくいかもしれない。
		指標 児 目標を決めて学習や生活にのぞんでいる	ノート アンケート	3.2		
		保 目標や夢に向かって学習・生活する子どもの姿	連絡帳 アンケート	3		
2 豊かな人間性の育成	⑥ いじめのない安心できる心の居場所づくり	項目 自己有用感、自尊感情、コミュニケーション力の育成	授業実践 行動観察	3.3	A 3.3	自尊感情や自己有用感をもっている児童が多い。児童が安心して自分を出すことができる居場所づくりが学校・家庭においてできているのではないかと。
		指標 児 自分の思いを伝えたり、友達の話の聞いたりしている	ノート アンケート	3.5		
		保 子どもの素直な会話、肯定的に受け止める姿勢	連絡帳 アンケート	3.1		
	⑦ 道徳教育の充実	項目 道徳の時間を要とした、道徳性を育む教育活動の実践	授業実践 行動観察	3.3	A 3.3	道徳科での学びや気付きを学校生活や家庭での生活に生かそうとしている児童が多い。
		指標 児 道徳の時間の学びを生活に生かそうとしている	ノート アンケート	3.2		
		保 ルールの遵守や公共心など道徳的な子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.3		

学校関係者評価

自己評価 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	・各単元の入口・出口を明確化し、対話を中心とした学び合いを通して「学びの楽しさ」を実感できる授業づくりを継続していく。学習のつまづきが見られる児童への支援・関わりを意識することを大切に授業づくりを進めていく。
○	・特別支援コーディネーターや特別支援学級担任と連携しながら適切な支援方法の共有化を図り、その有効性を見取りながら児童と関わっていく。困り感を表しにくい児童にも目を向け、丁寧な関わりを続けていく。
○	・児童の学習への達成感や意欲を大切にしながらより具体的に「何がどのようにできるようにすればよいか」を各教科において具体的に示しながら取り組む。授業だけでは力が付かない部分もある。家庭学習や朝学習などで繰り返し行うことが大切である。基準を保護者と共有することも意識する。えんぴつを持ち方や姿勢など学習に向かう姿勢ももう一度見直す。
○	・ICT活用が進むよさがある反面、AIやインターネットの情報に頼る等自分でじっくり思考する場面や、紙に「書く」活動は十分ではないと感じる。表現したり、推敲を重ねたりする時間を確保するとともに、そのよさを児童が実感できる授業づくりを行う。資料の活用や批判的思考を育てる授業場面などを積極的に設定する。考えを発表することが苦手な児童も一定数いるが、友達の多様な考えを聞く、一緒に考えることはよい刺激になる。
○	・キャリアパスポートによる取組はもちろんのこと、学校行事や生活など様々な場面で結果だけでなく「過程」を大切にし、目標やめあてに向かう過程の価値を児童が実感できるようにする。目標を可視化し、スモールステップで取り組めるようにする。
○	・児童への日々の関わりとともに、児童アンケートを起点とした実態把握など生徒指導チームを中心としていじめ防止への取組を確実に進めていく。未然防止・早期発見・現状や手立ての共通理解、経過見守りまでを細やかに進行。
○	・道徳科の授業づくり(展開・発問)や評価のあり方などを共有し、よりよい道徳の授業づくりを行っていく。教員も道徳的価値を理解し、様々な場面で児童の道徳性を涵養するよう取り組む。

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	評価 数値	達成状況	分析及び評価
	評価指標及び目標 (期待される児童の姿)					
2 豊かな 人間性 の育成	⑧ 人権教育の推進	項目	自他を大切にしようとする心情の醸成・人間関係づくり	授業実践 行動観察	3.1	A 3.3 児童・保護者は自他を大切にしようとする心情の育成、人間関係づくりができていると感じている割合が多い。教職員は、人権教育の推進をさらにめざしたいと感じている。
		指標	児 自分・友達のよいところやがんばりを見つけている	ノート アンケート	3.3	
		保	自分も友達も大切に過ごそうとしている子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.4	
	⑨ 特別支援教育の充実	項目	合理的配慮・適切なアセスメントに基づく指導・支援	授業実践 行動観察	3.2	A 3.3 思いやりのある行動をとっている児童が多い。「大切にされている」と実感できる学校や家庭での指導や支援が児童の人への接し方に表れているのではないかと。
		指標	児 思いやりの心で周りの人や友達に接している	ノート アンケート	3.6	
		保	障がいのある方、外国にルーツのある人、高齢の方などだれとでも協力・協調して過ごそうとする子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.1	
3 強い意志とたくましい体づくり	⑩ 健康安全と生命を育む体力・気力づくり	項目	体育科の充実といのちを尊重する保険安全指導の充実	授業実践 行動観察	3.3	A 3.2 学校では、体育科の時間や休み時間などに体を動かし元気に過ごしている児童が多い。保護者は「あてはまらない」と答えた割合がやや多かった。児童の体力が落ちているという現状もあり、今後意識して取り組んでいくことが必要な項目である。
		指標	児 健康や安全に気をつけて生活する	ノート アンケート	3.2	
		保	よく外で遊び、体を動かす子どもの姿	連絡帳 アンケート	3	
	⑪ 基本的な生活習慣の確立	項目	「早寝早起き朝ごはん」運動の推進、あいさつ・返事の習慣化	評価テスト 行動観察	3.1	B 2.9 できていると答えた保護者の割合が少ない項目であった。習い事や余暇の過ごし方等様々な事情があると推測されるが、家庭と連携しながら早急に取り組んでいくことが必要な項目である。
		指標	児 「早寝早起き朝ごはん」ができている	ノート アンケート	3.4	
		保	「早寝早起き朝ごはん」の習慣を身につけた子どもの姿	連絡帳 アンケート	2.3	
⑫ 安全教育の充実	項目	「生きる力」を育む安全教育の促進	授業実践 行動観察	3.6	A 3.5 避難訓練を含む学校での安全教育により、児童は命を守るためにどうすればよいのか考えたり、避難訓練に取り組んだりすることができている。家庭からは、災害のみでなく交通事故の防止や不審者への対応など児童の安全のため幅広く求められているのではないかと。	
	指標	児 避難訓練に真剣に取り組んでいる	ノート アンケート	3.7		
	保	災害から身を守ろうとする子どもの姿	連絡帳 アンケート	3.2		
4 家庭・地域連携	⑬ 開かれた学校づくり	項目	教育活動や安全安心に係る連絡などの情報発信	授業実践 行動観察	3.5	A 3.4 学校だよりやホームページ、メールなど学校が情報発信したものを保護者も把握している。また、保護者は学校行事等に積極的に参加し児童の様子をみてくれている。
		指標	児	ノート アンケート		
		保	HP・オープンスクール・広報誌による学校の様子把握	連絡帳 アンケート	3.2	
	⑭ 地域の教育資源の活用	項目	地域の史跡や「サポーター」等による地域資源の活用	評価テスト 行動観察	3.5	A 3.2 学校教育活動では、地域の史跡や「サポーター」等地域資源を積極的に活用することができている。児童も地域を知ることができていると考えられるが、地域行事への参加はやや少ない。
		指標	児 地域の行事に参加している		2.9	
		保	教育活動への依頼や地域資源の活用を図る学校の姿	連絡帳 アンケート	3.1	
5 資質・能力の向上	⑮ 教職員の資質・能力の向上	項目	研究授業や日々の対話を通じた切磋琢磨できる教職員集団	授業実践 学級経営	3.2	A 3.2 「対話」を軸とした研究授業を行い、事前・事後研究など職員同士も積極的に対話を重ねてきている。
		指標	児			
		保				
	⑯ 教職員のワークライフバランスの実現	項目	業務の精選・効率化による子どもと向き合う時間の確保	学級経営 勤務記録簿	3.2	A 3.2 学校行事が多い繁忙期もあるが、業務に緩急をつけ、時間を確保することができている職員が多い。デジタル化など業務の効率化も進んでいる。
		指標	児			
		保				

自己評価 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	・人権教育の研究を推進し、自他を大切にしようとする風土づくりに取り組む中で、温かい関わりの姿が見られた。また、児童会を中心に、「感謝の気持ちをもつこと」への取組が行われた。人権的な環境整備や体験活動の推進など全教育活動の中で取組を継続していく。
○	・「様々な友達が生活している学校生活の中でどのような工夫ができるか」という自他を大切にしようとするための特活の授業が行われた。一人一人の違いや多様性を認め合える学級づくりを引き続き大切にしていこう。保護者・特別支援チーム・関係諸機関などと連携して進めていく。
○	・よく外で遊ぶ児童と室内で過ごす児童が二極化している。体力をつけるためには体育科の時間だけでは限界がある。そこで、運動に親しむために、ICTを活用して自分に必要な動きを考えさせたり、身近な出来事を教材として取り入れたりしてきた。体力の向上を児童に見える形で伝え、生涯の健康のために継続して運動することのよさを実感させる取組を続けていく。感染症対策としては「ハンカチの日」を毎月設定し、取り組んでいることを継続させたい。
○	・保護者も課題と感じている割合が高く、各家庭での意識が大切な項目である。保護者への啓発を行い、学校と家庭とが連携して取り組んでいく必要がある。基本的な生活習慣が確立できるような生活目標の設定や授業の実施など児童が必要と感じられるようにする。 ☆おはしは正しく持っているのか。
○	・避難訓練に加え、特活や総合的な学習の時間で防災士を活用し、防災への備えなど児童が自らの命を守るために必要なことを考える学びを継続する。その際、不審者対応や避難所運営研修など適切な職員研修を実施していく。
○	・ホームページや学校だよりにより、学校の様子を地域や家庭に知らせていく。学校行事や地域行事を通して、地域や家庭とのつながりを深めていくことができる機会を大切に取組む。
○	・学校行事や校外学習などで緑の「サポーター」の協力が不可欠であった。引き続き登録を呼びかけていく。 ・地域の史跡等を活用し児童が自分の住む地域に愛着や誇りをもてるような学習の機会や地域行事の情報発信などを継続していく。
○	・「ミテミテ」「ミルミル」授業では、授業を見合う機会が多くあり、自らの学びにつなげることができた。身近な仲間から学ぶことができる取組を継続させていく。外部の研修会で得たことは、校内で広め学校全体の底上げを図る。
○	・業務のデジタル化、SSSの積極的な活用などを引き続き進めていく。より一層働きやすい職場づくりを自分達でつくろうという意識をもち、困ったことは相談しながら業務改善に取り組んでいきたい。